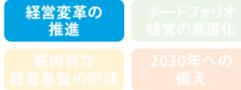


社会価値と経済価値の好循環を生み出す経営



ムラタのミッションは、文化の発展に貢献することであり、ステークホルダーとの共創を通じて、今を支え、未来を切りひらき、社会と調和することで、お客様の最善の選択となることを「Vision2030」のありたい姿として掲げています。

持続可能な社会の実現への貢献を利益創出と同軸で捉え、イノベーションを通じてお客様や社会に対して

価値を創造し、提供し続けるとともに生み出した利益を再投資してさらなる価値創出に結び付けていくことで、これらを実現していきます。

そのために、社会課題を起点として、「事業を通じた社会課題解決への貢献」と「企業活動全体での社会課題への取り組み」という2つの観点で重点課題（マテリアリティ）を設定し、取り組みを進めていきます。

社会課題を起点とした重点課題（マテリアリティ）



事業を通じた社会課題解決への貢献 ▶P.42



企業活動全体での社会課題への取り組み ▶P.63



マテリアリティの特定プロセス

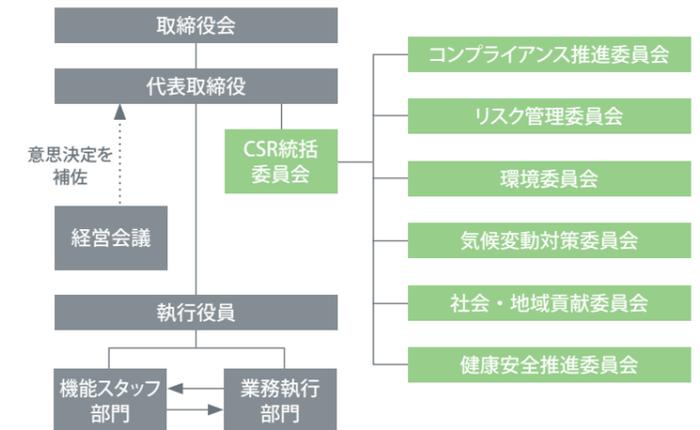
SDGs、グローバルリスク、ムラタの課題から約100項目の社会課題ロングリストを作成し、ステークホルダーにとっての重要性和ムラタにとっての重要度をそれぞれスコアリングしました。その上で代表取締役を含む役員、および関係者間で協議を重ね、マテリアリティを特定し、取締役会で決定しました。

マテリアリティの特定プロセスの詳細はこちらをご覧ください。
https://corporate.murata.com/ja-jp/csr/way_of_thinking/materiality#id3

マテリアリティの推進体制

ムラタは代表取締役社長を委員長とするCSR統括委員会を設置しています。

さらにその下に6つの下部委員会を設置し、組織横断的な活動を必要とするテーマについて議論を進めています。これら組織体制を通じてマテリアリティを推進しています。



事業を通じた社会課題解決への貢献

マテリアリティ	捉えている事業機会	ムラタの貢献
通信	<ul style="list-style-type: none"> 通信システムの進化にともなう部品需要の増加 通信が組込まれるアプリケーションの多様化 データを活用したソリューション・サービスの出現 上記を支えるネットワークインフラの構築、都市のスマート化の進展 XR技術の拡がりなどリアルとバーチャルの融合 	<ul style="list-style-type: none"> 人々の生活を豊かにするために欠かせない社会インフラとなった通信システムやネットワークインフラの安定化に貢献する高品質な部品の提供 継続的な技術革新と通信の領域で培ってきた知見による、通信システムの進化やアプリケーションの発展への貢献
モビリティ	<ul style="list-style-type: none"> ADAS（先進運転支援システム）や自動運転の普及による安全性向上、電装化の進展といった自動車の進化にともなう部品需要の増加 移動そのものをサービスとして捉える「MaaS（Mobility as a Service）」コンセプトのもと出現する多様な移動手段とサービスの融合 	<ul style="list-style-type: none"> 部品の小型化や高機能化、信頼性の向上を通じた安心安全な交通社会、および多様な移動手段とサービスが融合した社会の実現への貢献
環境	<ul style="list-style-type: none"> 脱炭素社会への移行に向けた取り組みの加速 製品の修理、再利用、資源循環に価値を置くサーキュラーエコノミーの進展 あらゆる産業セグメントでのクリーンテックと呼ばれる環境技術開発の進展 	<ul style="list-style-type: none"> 安心・安全・高効率・長寿命を競争優位とした電池・電源事業による脱炭素社会への貢献 通信部品や機能部品により各種環境面に対するモニタリングを実現し、脱炭素社会やサーキュラーエコノミーの実現を加速 自社のプロセス改善の過程で獲得した省エネ化、再エネ化に関する生産ノウハウを幅広く社外に展開
ウェルネス	<ul style="list-style-type: none"> デジタル技術による医療・ヘルスケア領域の変革 高齢化の加速にともなう予防医療や健康増進への取り組みの広がり 身体的な健康だけでなく、精神的・社会的にバランスの取れた健康や生活者自身の幸せの追求など健康概念の変化 	<ul style="list-style-type: none"> 小型、高品質な電子部品の提供を通じた医療・ヘルスケア領域でのデジタル化の加速への貢献 ムラタの技術やアイデアを組み合わせ、健康寿命の延伸や不安を取り除いた活力のある暮らしを実現していくためのソリューションを提供

事業を通じた社会課題解決への貢献の取り組み事例

通信



高周波デバイスによる通信の省電力化への貢献



2020年代に入り5Gの普及が進み、さらに2030年には6Gの導入も想定されています。通信システムが、あらゆる産業や人々のインフラとなり、その進化が生活様式を大きく変えていこうとしています。5Gの特長は高速通信ですが、高出力・広帯域幅の信号を扱うため、消費電力の増加という課題を抱えています。消費電力の削減はモバイル端末の利便性向上はもちろんのこと、気候変動対策の観点からも解決すべき重要な課題です。

ムラタは、この課題を解決することをひとつの目的として2021年9月にEta Wireless社を買収しました。Eta Wireless社が保有する「Digital ET技術」は、モバイル端末などの送受信機能に関わるRF回路の電圧を最適化して消費電力を削減し、端末の長時間動作に貢献する技術です。ムラタ既存の高周波モジュールとDigital ET技術を組み合わせることで、より低消費電力化が可能なソリューションを提供することができます。通信での技術革新により、社会課題の解決に貢献していきます。



モビリティ



積層セラミックコンデンサ (MLCC) の技術革新による安全・安心な交通社会の実現

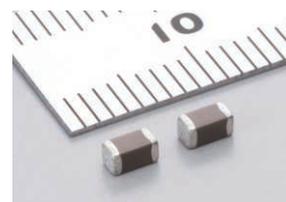


ADASや自動運転などの普及による自動車の安全性向上や高機能化にともない、自動車1台あたりに搭載されるセンサやプロセッサの数が増加し、これらを正しく動作させるためのMLCCの搭載数も増加しています。

ムラタは、2021年12月に3216M (3.2×1.6mm) サイズ/定格16Vにおいて、世界最大^{※1}の静電容量22μFを実現した自動車のパワートレイン・セーフティ向けMLCCを開発し、量産を開始しました。この製品は、独自のセラミック技術および電極材料の微粒化・均一化による薄層成形技術を用いて商品化しています。また、長期信頼性の高温負荷試験において最高使用温度125℃、定格電圧×150%、1,000時間を満たす仕様となっており、高信頼性も実現しています。

今後も、部品の小型化や静電容量の拡大、より高い信頼性が求められる中、技術革新を通じて自動車の安全性向上や高機能化に寄与することにより、安全・安心な交通社会の実現に貢献していきます。

※1 2021年12月時点、当社調べ



環境



自社ノウハウの社外への展開による脱炭素社会への貢献



ムラタは、生産子会社で3例目^{※2}として、2022年4月に仙台村田製作所(宮城県)の使用電力のすべてを再生可能エネルギーに転換しました。

さらに、仙台村田製作所では、高い安全性と長寿命性を持つ当社のリチウムイオン二次電池「FORTELION (フォルテリオン)」を活用した蓄電池ユニットと大規模なソーラーパネルを組み合わせた蓄電池システムの設置を予定しています。この設置により、生産計画や電力消費、気象状況などの各情報を統合管理してエネルギー使用を最適化する独自のエネルギーマネジメントシステムを活用し、電力供給網への負担を軽減していくことを見込んでいます。

今後は、この仕組みを当社の他拠点に展開していくとともに、将来的には自社で培ったノウハウを活かして社外にも広げていくことで、脱炭素社会の実現に貢献していきます。

※2 2021年11月に金津村田製作所(福井県)、2022年1月にPhilippine Manufacturing Co. of Murata, Inc. (フィリピン)にて使用電力のすべてを再生可能エネルギーに転換しています

